

2007年10月よりJ-STAGE等でPDFファイルの取得が可能になったので、今後は別刷りを作らず、これまでの別刷りの送付の代わりに、「比較生理生化」の該当号二部を著者へさし上げることになりました。(2007年11月5日,事務局)

投稿される方へ

「比較生理生化」は、日本比較生理生化学会の会誌です。会誌の発行は年4回(1-4号; 1, 4, 7, 11月末)で、内容は巻頭言、総説、技術ノート、研究グループ、海外だより、学術集会から、談話室、ニュース、その他(若手の会コーナー、書評など)で構成されます。会誌は会員には無料で配布されるほか、希望に応じて頒価で販売されます。

1. 次号に掲載希望の場合、発行の1ヵ月前までに原稿をお届け下さい。
2. 大会講演要旨を含め、投稿原稿の採用については編集委員会で査読し決定します。
3. 著者による校正は総説・技術ノートのみとし、他の記事は原則として行いません。
4. 本誌に掲載された記事の著作権は、日本比較生理生化学会に帰属します。ただし、自分の著作を使用する場合は、本学会にことわりなく自由に使用できます。
5. 総説と技術ノートの著作には、別刷り100部を無料でさしあげます。100部以上希望の場合は有料となりますので、投稿時にその旨連絡下さい。本学会会員以外の方に総説あるいは技術ノートを執筆いただいた場合、入会金と会費免除で1年間本学会員になれる特典があります。
6. 投稿に際しては、以下の執筆要領にしたがって下さい。
7. 本文中の図は、写真も含め、全て白黒とする。著者の要望により、編集幹事が認めた場合のみ、1枚を限度にカラーを認める。複数枚カラー希望の場合は、著者負担も含めて編集幹事と相談する。

執筆要領

原稿は、すべてワードプロセッサ(ワープロ)を使用する。特別なものを除き、横1行26字、縦28でプリントアウトする。原稿は、必ずFD、MO、ZIP、CDなどの記憶媒体に保存する。MS-WORDのほか、ほとんどのワープロを読むことができるが、念のためにテキスト・ファイルも記憶媒体に入れて下さい。記憶媒体には氏名、タイトル、ワープロソフト名を明記する。なお本誌の、刷り上がり1頁は、26字×56行×2段=2912字の分量に対応する。

図や写真などの情報も可能なら記憶媒体に入れてお送り下さい。それが不可能な場合は、原版をお送り下さい。また、電子情報は、e-mailで送っていただいても構いません。

校正依頼などに必要なので、FAX番号、TEL番号、メールアドレスも、投稿時にお知らせ下さい。

1. 巻頭言 刷り上がり1頁におさまるようにする。本文の長さは、50行×2=100行以内(タイトルと氏名の行を除く)。
2. 表紙絵(cover picture) 本誌の表紙にカラーの写真や模式図などを1枚掲載する。表紙絵の解説は、横52字で20行程度の長さとする。
3. 総説と技術ノート
 - 1) 原稿の長さは、図、表も含め刷り上がりで7頁程度(横1行26字で1頁56行×2=112行)とする。
 - 2) 表紙は付けず、最初の頁に標題と著者名を書く。脚注として、著者のローマ字名(名・姓の順)、所属(かつこして郵便番号と住所)を明記する。別紙に400字程度のアブストラクトをつける。本文の最後に、英文のタイトルとアブストラクトとキーワード(10個以内)をつける。
 - 3) 本文に節を設ける場合、1., 2., 3., 4.,をつけて節を示す。節の見出しは簡潔にする。大見出しの場合、書き出しとの間にスペースを1行あける。
 - 4) 文字はなるべく常用漢字と新仮名遣いとする。
 - 5) 術語、物質名などは、できる限り日本語で表し、必要に応じてその原語を()で示す。ただし、略号については、そのまま用いる。

(例)キネシス(kinesis), GABA
 - 6) 生物名は、片仮名書きの和名で表し、必要に応じて初出時に学名を()で示す。学名には斜体(イタリック体)文字であることを指示する((8)を参照)。

(例)キイロショウジョウバエ(*Drosophila melanogaster*)
 - 7) 人名は、姓の原綴りで示す。

(例)岩田は, Hodgkin と Huxley は,
 - 8) 文字の指定については、プリントアウトした原稿に朱で次のように指示する。
 - a) 立体(ローマン体)文字には、何もつけない。
 - b) 斜体(イタリック体)文字には、下に_____ (直線)をつける。
 - c) 太字体(ゴシック体)文字には、下に~~~~~ (波線)をつける。
 - 9) 単位記号、化学記号、数学記号は立体、量記号は斜体とする。

(例) *h* cm, A, *x* g, H₂O, sin *x*
 - 10) 数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、漢字と結合して名称を表すものは、漢字とする。

(例) 1つ, 2~3時間, 50個, 数十個, 一例

- 11) 参考文献の数はとくに制限しないが、50編以内が望ましい。参考文献は、アルファベット順に、通し番号をつけて文末にまとめて掲げる。本文中での引用箇所には、通し番号を右肩につけて示す(表示のしかたは下記の例を参照)。なお、本文中に引用していない文献を文末に掲げてはならない。
(例)岩田によると¹⁻⁴⁾、……………である^{5,8,9)}。
- 12) 文末の参考文献の記載は、次のようにする。
[雑誌] 通し番号)著者名: 誌名, 巻数, ページ(発行年)
[書籍] 通し番号)著者名: 書名, ページ, 発行所(発行年)
(例) 1) Iwata, K., Morita, H., & Takahashi, K.: *Comp. Physiol. Biochem.*, 110, 125-138 (1992)
2) 岩田清二, 森田弘道, 高橋景一: 現代比較生理生化学の課題, pp10-25, 城北出版社(1993)
- 13) 表は原則として3~5程度とするが、必要に応じてふやすことができる。簡潔な標題と必要な説明をつけて、本文とは別の用紙に作成する。ただし、1行は26字または52字以内のいずれかとする。
- 14) 図は原則として3~5程度とするが、必要に応じてふやすことができる。1枚の刷り上がりの大きさは、7.8cm(横)×24.5cm(縦)か、16.5cm(横)×24.5cm(縦)となるようにする。図面原稿は、本文とは別紙に、刷り上がりの大きさの1.5~2倍で描く。
- 15) 図には必ず簡潔な標題をつける。図の標題と説明は、図面原稿とは別紙にまとめて書く。13) 参照
- 16) 図および表の表示は、図1, 図2, ……、表1, 表2, ……の通し番号で行う。これらを挿入する箇所を、プリントアウトした本文の原稿欄外にエンピツ書きで指示する。
- 17) 図および表を文献から引用した場合は、引用を明記するとともに、引用の許可が必要な場合には、著者の責任で許可をとっておく。
4. 研究グループ 研究室や研究グループの紹介記事で、原稿は1行26字で70行程度とする。執筆者を含む顔写真、または研究現場のスナップ等の写真を少なくとも1枚添付する。写真には標題と説明を付ける。
5. 海外だより 留学などで滞在した研究室、訪問した研究施設、あるいは海外調査や見聞の紹介記事。できれば写真を添付してもらいたい。刷り上がりで2~4頁(1行26字で224~448行)程度とする。
6. 学術集会から 国内外の学術集会の紹介記事。長さは5.と同じ。
7. 談話室 テーマを限らず、会員の自由な意見を掲載する欄。長さは5.と同じ。
8. ニュース 比較生理生化学会の会記のほか、関連のある学術集会の案内などの投稿記事を掲載する。
9. その他 上記のいずれに入らない記事でも、随時掲載する。原稿の長さなどについては、編集担当者に問い合わせること。